

細長い形をへびに見立てたり、鮮やかに彩色したりしたヒョウタン工芸の
展示(南丹市園部町・アスエルそのべ)

光る発想 ヒョウタン工芸

瓢会
一支部



保津川下りの舟や船頭、乗客をヒョウタンでユーモラスに表現した作品

ヒョウタン工芸の愛好家がつくる「全日本愛瓢会」の京都支部発足を記念する作品展が、南丹市園部町のアスエルそのべで開かれている。くびれた形をへびや飛行機に見立てた発想の光る作品や、透かし彫りなどの技巧を凝らした工芸品など約100点が並ぶ。

全日本愛瓢会京都支部発足記念

形見立てた作品など100点

南丹

支部は1月、同市の13人で発足した。仲間を増やそうと記念展を企画。府全域に参加を呼びかけると、京都市や大山崎町などの6人が加わった。

作品展には、府内の小学生から80代までの約15人が出品した。細長い形を生かして保津川下りの舟と船頭を表現した作品、長さ2尺の巨大な実など、多彩な創作品がそろった。農芸高(南丹市)の生徒も、透かし彫りの中に照明を入れたランプを出展した。

来年6月には、全国の会員が逸品を持ち寄る総会が南丹市で予定されている。支部の中川圭一代表(82)は「年齢を問わず楽しめる趣味。総会に向けて弾みを付けた」と話す。

全日本愛瓢会の井村裕治会長(65)＝福井市＝も来場。ヒョウタン型絵馬のある豊国神社(京都市東山区)、通称「ヒョウタン寺」の福勝寺(上京区)など、京都は秀吉との関係からヒョウタンと縁が深いとして「活動が広がってほしい」と願った。

3月5日まで。無料。(田中恒輝)